

第1回総合体育館基本構想検討委員会議事概要

1 開催日時・場所

令和2年11月25日（水）午後3時から
ホテルウェルビューかごしま

2 会次第

- (1) 知事挨拶
- (2) 委員紹介
- (3) 委員長選出（※委員長に鹿児島大学法文学部の石塚孔信教授を選出）
- (4) 委員長挨拶
- (5) 議事
 - ① 新たな総合体育館の整備に向けたこれまでの検討経過について
 - ② 今後の検討の進め方とスケジュールについて
 - ③ 先行事例調査の実施について
 - ④ その他

3 議事概要

事務局から以下について説明

- (1) 新たな総合体育館の整備に向けたこれまでの検討経過について
 - ・ 現行の県体育館の課題や利用状況，県議会におけるこれまでの主な論議等の状況等について説明
- (2) 今後の検討の進め方とスケジュールについて
 - ・ 当委員会において，前回の「大規模スポーツ施設の在り方検討委員会」の提言をベースとして，具体的な施設の機能，規模・構成等の検討を行い，その上で，整備候補地を検討し，最終的には基本構想（案）策定まで行う旨を説明し，了解を得た。
 - ・ 事務局案として，令和2年度中に2回，令和3年度中に概ね5回程度の開催を想定している旨を説明し，了解を得た。
- (3) 先行事例調査の実施について
 - ・ 事務局から「栃木県総合スポーツゾーン新体育館」，「武蔵野の森総合スポーツプラザ（東京都）」，「高崎アリーナ（群馬県）」，「墨田区総合体育館（東京都）」の4施設を提案
 - ・ 委員から寄せられた提案等を踏まえ，改めて事務局から調査先と実施時期について提案することを確認した。

4 委員の主な発言（要旨）

- 施設をどう建てるかではなく、どう使うかが重要である。
- スポーツ振興の拠点としての機能と多目的利用による交流拠点としての機能は物理的に並列しない。どちらに重点を置くかで施設の在り方が変わる。
- 施設の具体的な機能や規模・構成を検討する上で、将来、県として招致したいスポーツ大会の具体像を明確にすべき。
- ただ、近年では、高校クラスの全国大会であっても、運営規模は大きくなっており、招致することは容易ではない。
- 総合体育館に関する議論の始まりから10年以上が経過しているが、議論が元に戻った気がする。その間、相当の費用と労力をかけて検討してきたが、未だにその整備に至っていない。迷走してきた感があり、また、民間から見るとスピードに欠けるのではないか。
- 検討委員会における今後の議論を進めるためにも、未だ整備に至っていない理由について総括すべき。
- 民意を吸い上げることは大事だが、どこかで知事や県議会が決断をすべき。
- 2023年度のかごしま国体に間に合わせるようなスケジュールで検討するのではなく、アフターコロナを見据え、じっくりと施設の在り方を考えたい。特に、空調・衛生、動線、情報ネットワーク環境については、コロナを見据えた議論をしていただきたい。
- 経済界からは、以前からコンベンション機能を望む声がある。アスリートファーストを前提にした上で、複合的な施設がよいと考える。

- 指定管理者なのか、PFIなのかという運営の議論は必要であり、また、県の厳しい財政事情を鑑みても、整備後の継続可能な運営について議論すべきではないか。
- 施設がどのような使われ方をするのかを明確にした上で、施設の機能等を検討しなければ、様々な機能を求めてしまい、結果的に何にも使えない中途半端な施設になってしまう。
- 基本構想を夢物語に終わらせないためには、最終的にどれだけ知事が腹を括って予算を認めるかである。
- 何のために施設を整備するのかを明確にした上で、施設の規模等を検討しなければ、色々なものを盛り込み、その結果、整備費や、その後何十年も払い続ける維持管理費の額が大きくなり、次世代に大きな負担を残すことになる。
- 県の体育館として最低限維持しなければならない機能は何なのか、他の体育館で代替できる機能は何なのか押さえた上で、プラスアルファの部分を検討すべき。
- 鹿児島県が目指す施設の姿を念頭に置いて、視察すべき施設を検討すればよいのではないか。
- 日本国内の先進事例を見ることもよいと思うが、海外の民間資本で整備・運営している施設について勉強することも必要ではないか。
- 首都圏の施設もさることながら、立地環境が類似する自治体の施設の建設費や維持管理費なども知ることができればありがたい。